

---

# お笑い学院高等部

たけ10005

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

お笑い学院高等部

### 【著者】

20984F

### 【作者名】

たけ10005

### 【あらすじ】

漫才街道まつじぐらの少女の血と汗と涙の物語…のよつな氣がする

## お笑いのためのπ（前書き）

お食事中の方は1話目だけは食事が済んだ時読んでください

## お笑いのために

「脱糞だ！（だ○ふんだ）」

「いきなりナニ？」

美喜の爽やかな朝を茶色に染めて「ださりやがった」のセリフを吐いた女こそ、我が母である。

お笑い学院高等部～お笑いのために（ヒリ○ゼのために）～

「で、何？このウインナー…」

美喜は、母の焼いたウインナーを指さす。

「勝った！WIN！」

母のボケ炸裂！美喜に2億飛んで1ナノのダメージ…！

美喜は、ガタガタするひざをなんとか立つたまま突っ込む

「違うわアホ！」の焦げたウインナーはなんだつての…！」

「脱糞。」

キツと母を睨む美喜。

「もつしもつし母よ～母さんよ～ お前の脳はドコにある？ガタガ

タプルプルランラン！」

美喜は歌いながら母の頭を揺する

「失敗しちゃった」

「 じゃないわよ！朝から漫才始めんな！」

「ひざまずいて泣いて許しを請うたら許してあげる

「ゴン！」

美喜はひざまずく代わりに母に頭を下げ、高々度式頭突きをする。遠心力と重力をノセたその一撃は、鉄板さえ紙のようにひしゃげる。そして本人は頭蓋骨が割れる。しかし問題ない。頭蓋骨など、誰でも割れ目がある。赤ちゃんなど、割れ目の間は隙間がある。母よ、安らかに眠れ。で、もう田舎めんな。

母、登代子。享年49歳、撃・沈

「いつてきま～す」

こうして、いきなり母という名の敵を倒して経験値が39・195  
もらえてレベルが1・3上がった！

美喜は元気に漫才通りを経由して漫才学院高等学校を目指した。

これは、美喜のお笑い芸人街道という名の霸道を歩む物語をちらり  
り、黒ハイ一ソックスとピンクのハイスカートの間並みに魅せる  
物語である…ハズだ

## お笑いのために（後書き）

1話は日本では流行らなかつた、全身真っ白のHログロナンセンス。あの演技ジャンルを連想しました。

今作でなく、今話だけの雰囲気。次回作は、一つでも感想か評価をしてくださいなかつたら、連載止めます。小心者で変わり者なんでも応援お願いします！

## 忍竜ひてタレ？（前書き）

母と漫才勝負で勝つた美喜。漫才レベルも上がりつてチョーハッピー

## 弱竜つてダレ?

ガヤ「ねえ、ねえ！昨日のアーメン」一氣当然（間違つても一騎〇千  
ではありません）”観た～？十戦力ツコ～い！弱竜、超キモいんだ  
けど～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

ガヤ2「弱竜って、十戦にキミの瞳に完敗（乾杯）って言ったヤツ  
でしょう？弱いし、ザコキャラなのに超目立つてるよね～」うぜー」

お笑い学院高等部「弱竜つてダレ?」

いつも登校。いつもの道。それなのに、今日は気分爽快 母に145戦39勝目だからかな?それとも一気当自然が面白いからかな?

あー浮き足立つてゆっくり歩いてた!走らなかやーててて

いつた

曲がり角でふかた  
…は…!? おわが 恋の予感?  
恋といひ  
より変

「ああ、お前はお前のお名前でいいんだよ。」

「千景…やつほ…今日、母さんに勝つてレベル1上がった  
痛い…千景です…って、！美喜じやん！機嫌良いね！」

つて違う!なんであんたは女なんだ!?」

「何それ？」

千景は私の親友だ。いずれはお笑いコンビ作つて日本一になるんだ！でも、運命の人は女なん？：んなわけないか（笑い）「あんた、いつもお母さんに負けてこめかみにシワ寄せてるから、今日はかわいく見えるよ！」

「いつもじゅありません～… 145戦39勝します～」

「ねえ、知ってる？怒り易いのはカルシウム不足だからだよ。カルシウム不足すると骨溶けるんだよ？」

「ちょ、ぱつ！？んなわけないじゃん！なんで溶けるんだよ？」

美喜は顔を真っ赤にし、千景はそれを見て笑ってる。

「怖がってる」

「な！？こわがってなんか、ないよ？」

「怖がってんじゃん！アハハ」

そりや、怖いけど、そこは怖がっちゃアカンやろ

「声に出てんんですけどー」

「な！？怖くない！」

美喜は首を振る。しかも縦に。

「ウソだよ！やつぱり怖がってた（笑）

チクシヨ…

「さ、はよ学校いくでー」

「まてー！」

「またーん」

美喜は10005円経験値を失つた！2レベルが下がつた！？

一人は学校に到着。したはずだが…

『陰？』

二人はハモつた。と、同時に美喜の体が浮く

「へ？…ええー！？」

## 弱竜つてタレ？（後書き）

あまりこの文がわからない方へ助け船。

Q 結局弱竜つてナニ？

A スーパーマリオブラザーオのクリボ〇みたいなものです。キノコ

に牙が生えたク〇ボーです。だから気にしないで（笑）

## 今度は〇〇なの？（前書き）

お笑いバトルで母を倒しレベルが2上がったものの、運命の出逢いは親友！？さらに会話に失敗！レベルが2下がる！そんな時、美喜に異変が！？

## 今度は○F○なの？

突然空に浮いた美喜。千景はハンカチを振って校舎へ。

「いや、助けてよ！？」

「え～？ 私まで連れてかれちやうじやん！」

千景はひよこのよつたなクチバシでしゃべる…じゃなく、唇でしゃべる。

「いいじやん！ 一緒にあの世の果てまで○F○…」

「嫌」

美喜の懇願むなしく、○F○にさらわれる。

「今度は○F○なの？」

（お前が、美喜というお笑い芸人の「ワトリは」）

「もう成熟してるし！？」これが私の限界？（アイ、マム）

「軍人かい！私は指揮官じゃない！」

（じゃあ、いつたい何をしたいんだ？これ以上何を望む？）

「連れてきたのはあんた達よ！？M1で優勝したい！願い叶えてくれるの！？」

（いや、聞いただけだ）

「いや、なんで？叶えろよ！そこは叶えろ！」

（神をも恐れぬその息やよし、神であるタケツチャンにおまかせ～）

（神様なの！？エイリアンぢやつん！？…それに）

（それによし）

「神様はお客様や！」

（大丈夫！お客様は神のまた神様、ゼウスだから）

「さよか…ならええねんけどな」

（エセ関西弁やなあ）

「ええやん！お笑い芸人っぽいやん！（うわー芸人様、読者様、すみません！だから石投げないで！痛い！あつ。そこつーってー！」めんなさい、キモ良くて《！？》すみません《ペコペコ》（今後はワシが美喜の心にシッコミ入れるから、シッコミ上手くなれな。）

「わかった：だからもう帰して…」

（ちつとも嬉しくなさそつだの…まあよー、さらばだー。）

美喜は、神の力を得た！（お

## 数学ってつまんない？（前書き）

母を肉弾戦で倒し（お笑いじゃないの！？  
お笑いレベルが低かつたり高かつたりしてたら神の力を得た！

## 数学つてつまんない？

「千景！ 酷い！」

ガラツと教室の扉を開けるなり、千景を確認する前に、文字通り開口一番に叫んだ。

「美喜… 生きてたんだ… いえ、あなたとは今日は初めて会ったのよえつと美喜は口を開け、ビックリする。

「…え？…あ…ごめん、夢か」

（夢ではない）

「夢ではないって言つてるじゃん！」

今度は千景が口を開ける。

「誰が？」

「え？誰つて…」

（神だ）

「そう！神様！」

千景は同情の視線を向ける。

「ふあいと、だよ！」

二人は完全に頭がハテナになる。

「数学つてつまんない？」

「…二次方程式を使つて…そこいつ…授業中に寝るな！」

ピシッとチョークを投げる先生。

投げつけられた美喜はズビシャツーとチョークを人差し指と中指で受け止め、握り潰す。

「つまんない。他の問題出して。しょーイチのヤツ。」

漢のマロン（ロマン）が花と散る…

授業終わり18分前に立ち直った教師、続ける

「…1+1=?」

「10！」

「なんでそうなる！？」

紫色の顔に変化する…「わー…」。

「一 + 一 = 十 やん！」

すかさず先生攻撃（先制攻撃？いえいえ、後攻です）

「文字計算かい！普通に計算せい！」

「なんでなん？ココお笑いのガツコだよ？」

「通常授業はきちんとせな、国に高校として認められないの…」

「チエツツまんない」

美喜は経験値を2鷹もらつた！レベルが1上がつた！？（聞くな  
神様起床。とにかく、寝ぼけてるわけではないね、神様神様は次回  
戦闘開始！）

美喜の やつたよ！春爛漫！（らんまん）（前書き）

お笑いで母を倒し、お笑いレベルが低かつたり高かつたりしてたら  
神の力を得た！前回は神様が寝てたので、今回は馬車馬のことく働  
いていただきます！

## 美喜の やつたよ！春爛漫！（らんまん）

### お笑い授業

作者お笑い能力無いためスルー。ほんまスミマセン

おはよ〜いぞ！ います、 こんじけは、 こんばんは、 今回の天の声、 “たけ” です（あんた誰？）

お前の神だ！ このバカ神！（な、 なんだつて〜！？  
ふん！ 恐れ入つたか！ 俺はゴッド・オブ・ゴッド（変な名前  
”たけ” だつて言つてるだろ！？ つていうか、 まったく恐れ入つて  
ねえ！？ （… つけ

鼻ほじんな！ このガキヤー！（さつさと始めるバカ神。 カメラまわ  
つてんぞ。

ま、 マジ！？ 俺、 いきなりピンチ！？（「愁傷様たけくん 残念、  
たけくん  
バキッとな（死

コホン… タ焼け小焼けの放課後…（いきなりだな、 おい。  
「じゃ、 補習はとんずらして帰りますか、 千景さん」（さりげな  
く怖いことしてますね。

「あらやだわ～ 美喜さん」（おばさんの井戸掘りみたいだね  
井戸端会議だ、 ドアホ。

美喜はロッカーを開ける（ラブレターが…？

～ 美喜の やつたよ！春爛漫！（らんまん）～

ラブレターは、 無かつた。（なんだよ…

「やあ、美喜さん」

ああ！（なんだ！？

100円みつけ（くたばれ？《笑

ジューース買えない…（神なら生み出せよ。話床せよ…

美喜は、クラスメイトがいたので声をかける。

「弱竜！」（そこ…？そこなの…？そこでアニメキャラ出るんだ…？つていうか、弱竜クラスメイト！？

弱竜、出ねえよ。（なんだよ…

美喜は「ごめんちやい」と頭をコツンと小突く。（可愛くないがな。

「やほ、百鬼君」（なんか強そうですよ！？

だつて百鬼だもん（ハラシヨー！

「美喜さん、夕焼けをバックにチャリ一人乗りしよ「づぜー」（道路  
交通法違反！

「あら、ス・テ・キ」（ノリノリじゃねえか！千景を置いてくなよ…  
「でも残念」（千景を思い出したか、美喜！

「あなた、汗臭そうなのよ」（酷つ…

「人を見かけで判断するな！」（おやおや、百鬼君怒りだしました  
よ？

「ならあ…」

美喜は女の武器だと言わん限りのクネクネポーズをする（キモツ…  
あと、千景が泣き出しそうです。

「人差し指スクワットしたら付き合つてア・ゲ・ル」（好みのタイ  
プじゃないらしい。

「美喜、調子ノリ過ぎ。百鬼君かわいそうよ」（お…まともな人間  
一人。

「できるか！」（できませんか？

「なら、付き合わない私と付き合つためなら、指の2本くらい  
折れるわよね？」（極悪非道だよ…

「ぐ…あいわかった！やるぞ…」（やんの…？

「痛でつ…？」（ポキッとな。

「イギヤ～！……ゼイゼイ…ハアハア…ビ、ビつだ！？」（弱つ…百鬼弱つ！）

「スクワットできなかつたからダメ～」（もはや弱鬼やななんやそれ！？もうええわ！）

美喜は”たけ”と神のおかげでレベルが8上がつた！

たけ&#amp;#神&#amp;#弱鬼&#amp;#美喜…ありがとひ、じゃいました～

完

私の挨拶は～！？ 千景

## 美喜の崩壊後（放課後）バンバン（前書き）

美喜はお笑いで母を倒し、お笑いレベルが低かつたり高かつたりしてたら神の力を得た！

しかも、百鬼に告白され、美喜は百鬼を人差し指スクワットの刑に処す。百鬼に未来はあるのか！？（そんな話が続くわけではあります

せん

## 美喜の崩壊後（放課後）バンバン

「美喜！ ひどいじやねえか！」

「わかつたわよ、親友から始めましょ」

「しゃあ！」（原画家のしやあさんのことではありません。

百鬼はガツツポーズをしつつ跳ねる。

「器用な男ね……」

千景は、存在感取り戻すために、必死に爽やかガールを演じた。（うつせいわよ！

それでもって下校……

美喜は、三人で帰り、途中ちょっと恥ずかしがりながらそこはかとなく言つた。

「でも、大事なことは気軽に気が合う千景が良いな」

「美喜……」

友情とは、信頼という大地に立つ一輪の大花。

千景は、うつすら涙を浮かべて微笑む。

と、その笑みを返された美喜は、手を差し出す

「……なに？」

「いいこと言つたから、なんかちょーだい

「逝ね」

千景は拳をプレゼントした。チャチャチャララン

美喜の崩壊後（放課後）バンバン

公園で道草をもしゃもしゃ食べた帰り道、同じクラスの優等生みつ

ける。（どつちかつて）「うと、草食べたネタを知りたい所だ。

「あ！ あれは生徒会長の出来無差杉じゃない？」（どこからどこまでが名字なんだ……？ つて）“できなわす”“つて……そこは……。

「ねえ、あの店……」

「ああ、間違いない」

（酒屋だな。

美喜は田を輝かせて言つ。

「からかいに中に入らひつー 私一番！」

「すみませーん。樽に入つたお酒ないですか～？」

「すみませーんそれは無い……で……す？」

そこは出来無差杉の実家だつた。チヤラらん

「すいぶん若い声……お笑い学院の制服じゃねえか！ 帰れ帰れ！」

美喜は文字通り、首をつまみ、外に出される。これがホントのつまみ出し。ダラダダダーン

「いぬん……！」

美喜脱兎の「」とく逃げ出した！

美喜は人としてのマナーを落とした！ 一億パケを落とした！

「ただいま～つて、もつお母さん死んだんだっけ」

「おかえりー」

なんと！ 母が田玉焼き作つてた！

「生き返つた！？」

「つおつす！ オラ○悟空ー！」

「变身済みー？」

「アイヤー！ 略してウルトラスーパークリーナー！ チャイニーズ！？ しかも略してないよ！？ 全然略されてない

よ！？ 名前変わつてるし！」

「うん、一万分の一に略されてるね」

「聞いてないし！」

「しかも夜目玉焼き！？なぜにWhey？」

「朝じゃなきゃいけないなんて誰が決めたんですか～？ 何月何日？ 地球が何回回った日？」

「くつ……」（さすが母だな

「……あ！ 夜だから牛乳が良い？ 安眠促進」

「ああもう！ めちゃくちゃだ！ 私も押しすぎて失敗したのよ！ 少しは引っ込め！ メガトンヘッドアタック！」

「グハッ」（なんで美喜が殺られてる！？

「母ver.5.04！ 骨格はダイヤモンド！ る～んる～ん  
るんるる～ん 私の頭、ダイヤ～モンド～（マクロ～！？

（硬つ！ 反○弾でも壊れない！？ 美喜！ なんか頭からトマト  
ジュースがドクドク流れてるぞ！？

「殺す！」（つていうか母とバトルする娘つていいたい！？ お

笑いの神様は意外と常識人

「私には、超えなければならない母がいる！  
だから……死ぬわけにはいかないんだ～！」

「チュー」（聞きたくないが聞いてやろう。何をしてる？

美喜は満面の笑みで言う。

「輸血（はあと）（頭から出たトマトジュースを吸つて輸血できる  
か）！」

「できるのよん 私たち、格闘お笑い芸人の血筋で、流れる血は  
トマトジュースだから（はあと）（さらつと怖いこといつてるし！  
プロ○カルチャー！ プ○トカルチャーだよ～！ママン！ 神様

脱兎  
美喜はやかましい神から解放され、得意げに言つ。

「ふつ…私たち親子の漫才でお笑いの神様を倒すなんて…」

「ホントね…あなたなら、いつかこの口が来ることを信じていた。  
娘よ！」

「お母さん！」

二人は抱きしめあつて涙を流した。流れたのは水銀！『怖ええよア  
ブねえ！！　さりげなく、たけ

その後、たけは一人をお笑いの王女と女王にし、王は弱鬼！

『ヴァンパイア生まれそうだな、おい』

そして10年後美喜、お笑い女王になる

エンディング歌

毎日毎日ワツハツハツハツ　お笑いだ  
みんなの味方はお笑いだけ

（怖すぎるよ！　）んな歌！

今日もどこかでツツコミがでる…  
がんばれ！　お笑い市民！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0984f/>

---

お笑い学院高等部

2010年11月20日02時58分発行